

目次

口 絵

刊行のことは

例 言

まえがき……………一

一、富山県薬業史資料集成の発行……………三

二、富山県薬業の特色……………八

三、富山県産業と売薬業……………一四

四、行商についてのクラスと柳田国男……………一七

第一章 富山売薬業の形成……………二九

第一節 富山売薬業の概念……………三〇

一、くすりの配置制……………三〇

二、懸 場 帳……………三二

第二節 富山売薬業の起源……………三七

一、売薬……………三七

二、反魂丹……………四二

第三節 富山売薬業成立の基礎……………四八

一、風土的基础……………四八

(ア) 急流河川の密集……………四八

(イ) 神通川の洪水……………五一

(ウ) フェーン現象と火災……………五四

(エ) 積雪……………五五

(オ) 風土と出稼ぎ……………五五

(カ) 儉約と力行……………五八

二、人的基礎……………六一

(ア) 前田正甫……………六一

(イ) 立山信仰……………六五

三、社会的基础……………六九

(ア) 北陸街道……………七一

(イ) 飛騨街道……………七三

(ウ) 海運とくに西回り海運……………八一

第二章 江戸時代の富山売薬業……………九一

第一節 富山平野の地域的分布……………九二

一、富山周辺における売薬商人の分布……………九五

(ア) 中心の富山	九五
(イ) 八尾	〇〇
(ウ) 四方・西岩瀬	〇二
二、加賀領に及ぶ売薬商人	〇四
(ア) 東岩瀬	〇五
(イ) 水橋・高月・滑川	〇六
(ウ) 射水農村地域	一一
(エ) 小杉町・大門町	一七
(オ) 高岡	二〇
三、富山領売薬商人と加賀領売薬商人の関係	二二
第二節 行商地域の全国的分布	二五
一、富山売薬の行商地域の拡大	二五
二、薬の普及と領域的統制	二八
三、組の編成と全国市場	三二
四、薩摩領内の行商地域	三八
五、薩摩藩における売薬配置計画	四四
六、近江商人との比較	四五
七、大和売薬商人との関係	五〇
第三節 仕入	五五
一、原料薬種の流通	五五
二、卸売売薬商の仕入	五九

(ア) 大坂より仕入	一六〇
(イ) 海人草	一六二
(ウ) 補助原料	一六三
三、行商人の薬種屋よりの仕入	一六七
四、行商人の仕入諸経費	一七一
(ア) 石州諸仕入帳簿	一七一
(イ) 支出と仕入費	一七七
第四節 製 造	一八〇
一、生産形態の推移	一八一
二、製 薬 場	一八三
三、労働力と地域経済	一九一
四、製薬と領主的商品経済	一九六
第五節 販 売	二〇四
一、仲間組の販売規制	二〇四
(ア) 旅先領内の販売の独占	二〇四
(イ) 重配置の禁止	二〇五
(ウ) 価格の協定	二〇五
(エ) 新懸の限定	二〇六
(オ) 置合薬の処置	二〇七
(カ) 店売の卸値協定	二〇八
二、旅先の販売地域の選択	二〇九

(ア) 薩摩藩内の販売地域	二〇九
(イ) 大坂近郊の販売地域	二一四
(ウ) 販売地域選択の意義	二一五
三、旅先藩からの差留と解除	二一七
(ア) 差留	二一七
(イ) 解除	二二三
四、旅先藩内販売行商の仲介者——「名誉領事」	二二五
(ア) 仲介者の活動	二二五
(イ) 融資	二二八
五、旅先藩に対する利益補償——薩摩との昆布交易	二三一
(ア) 富山—松前—薩摩—大坂—富山の航海	二三一
(イ) 昆布交易の回漕業	二三三
六、貿易摩擦対策	二三六
(ア) 売薬の輸入と旅先藩商品の輸出のリンク・システム	二三六
(イ) 輸出入金額の均衡	二三八
(ウ) 交易拡大部分の均衡	二四三
七、土産品	二四六
(ア) 献上品	二四六
(イ) 得意先への土産物	二五〇
(ウ) 売薬版画	二五一
第六節 売薬業経営資金と懸場帳	二六九

一、担保……………二六九

二、条件付き売却……………二七三

第七節 富山藩の保護統制と商人仲間……………二八〇

一、旅先行商への保護……………二八〇

(ア) 旅先藩への行商継続の斡旋……………二八〇

(イ) 資金援助……………二八三

二、薬種吟味……………二八五

三、薬種会所……………二九〇

四、売薬人仲間の取締り……………二九六

五、反魂丹役所……………三〇六

(ア) 設置の目的……………三〇六

(イ) 組織……………三〇七

(ウ) 機能……………三一

(エ) 反魂丹役所の附属変更……………三一三

六、売薬商人の仲間制……………三一六

(ア) 行商の発展と仲間制……………三一六

(イ) 仲間組の規制の意義……………三一九

(ウ) 仲間組の諸機能……………三三〇

第八節 加賀領の売薬業……………三三三

一、新川売薬……………三三五

二、射水売薬……………三四六

三、高岡売薬	三五七
第九節 旅先及び国もの生活と教育	三六六
一、旅先の生活態度	三六六
二、文献にみられる売薬商人	三七二
(ア) 内山逸峰の売薬行商の見聞日記	三七二
(イ) 内山逸峰の「旅日記」	三七六
(ウ) 泉鏡花の「高野聖」	三七七
(エ) 北海道開拓期の「岩倉日記」	三七八
三、売薬商人と家庭生活	三八〇
(ア) 売薬歳時記	三八〇
(イ) 生活の理念	三八四
(ウ) 中田家の家訓	三八八
(ニ) 留守居妻	三九七
(オ) 女行商人	四〇一
四、薬業教育	四〇八
(ア) 寺子屋	四〇八
(イ) 本草学	四一一
第三章 明治時代の富山売薬業	四二五
第一節 明治前期	四二六
一、廃藩置県と富山売薬業	四二六
(ア) 売薬営業の官許	四二六

(イ)	太政官布告による売薬規則	四三二
(ウ)	明治初期の売薬仲間組	四三九
二、	洋薬の新採用	四四四
三、	売薬業者の税負担	四四八
(ア)	売薬商人の負担の推移	四四八
(イ)	売薬営業税	四五五
四、	売薬印紙税	四五八
(ア)	内務卿の上申書と印紙税	四五八
(イ)	印紙税の反対運動	四六二
五、	売薬の批判——福沢諭吉の売薬論	四六八
六、	会社の創立	四七六
(ア)	創立の気運	四七六
(イ)	広貫堂の創立	四八三
第二節	明治後期	四九六
一、	売薬組合の結成	四九六
二、	売薬製造会社の設立	五〇五
(ア)	諸会社の設立	五〇六
(イ)	製薬会社の内容	五〇七
(ウ)	明治三十年代の富山の町	五一一
三、	売薬業の諸税	五一四
(ア)	地方税としての営業税	五一四

(イ)	国税の売薬営業税	五二七
(ウ)	売薬営業税付加税	五二三
(ニ)	国税営業税より営業収益税への推移	五二四
(ホ)	売薬税と商業会議所議員選挙権	五二八
	四、海外進出の先駆者たち	五二九
(ア)	朝鮮半島	五三一
(イ)	中国大陸	五三三
(ウ)	台湾	五三八
(エ)	ハワイ	五四〇
	五、売薬資本と近代産業の導入	五四三
(ア)	銀行業	五四四
(イ)	電力事業	五五二
(ウ)	繊維業その他の産業	五五四
(ニ)	売薬関連産業	五五五
(ホ)	売薬業者の地域活動	五六〇
	六、薬業教育機関の設置	五六二
(ア)	共立富山薬学校	五六五
(イ)	富山市立富山薬学校	五六七
(ウ)	富山県立薬業学校	五七〇
(エ)	富山県立薬学専門学校	五七一
	第四章 大正時代の富山売薬業	五八一

第一節 第一次世界大戦と富山売薬業……………五八二

一、富山県産業の代表……………五八二

二、薬価暴騰と薬草の自給策……………五八三

(ア) 原料薬の大暴騰……………五八三

(イ) 売薬生産への影響……………五八七

(ウ) 薬草栽培事業の推進……………五八九

第二節 売薬製造の発展……………六〇〇

一、株式会社の発展……………六〇〇

二、進まぬ資本金の払い込み……………六〇四

第三節 売薬諸税の廃止運動……………六〇八

一、売薬印紙税等に対する反対運動……………六〇八

(ア) 売薬税並びに売薬規則の改正請願……………六〇九

(イ) 売薬行商税廃止の意見書……………六一二

(ウ) 売薬印紙税全廃の陳情……………六一三

二、印紙税全廃同盟……………六一七

(ア) 全廃同盟の結成……………六一七

(イ) 全国売薬業団体連合会による廃止決議……………六一九

第四節 海外売薬……………六二四

一、大正前期の中国進出……………六二四

(ア) 中国市場……………六二四

(イ) 日貨排斥運動……………六二九

(ウ) 市場視察員の派遣	六三二
(エ) 輸出業者の権益保持への動き	六三三
二、大正後期の海外売薬	六三六
(ア) 県内輸出業者の分布	六三六
(イ) 北朝鮮・浦塩の市場調査	六三七
(ウ) ウラジオストークからの薬店引揚げ補償の申請	六三九
(エ) 中国における売薬の発展	六四三
(オ) 輸出売薬の生産地域	六四六
第五節 大正期の富山売薬業の推移と関東大震災	六四八
一、富山売薬業の躍進	六四八
(ア) 売薬生産の地位の上昇	六四八
(イ) 郡市別の動き	六四九
二、四方 売 薬	六五〇
三、関東大震災と売薬業の被害	六五二
第五章 昭和初期の富山売薬業	六五五
第一節 昭和恐慌と富山売薬業	六五六
一、売薬生産への影響	六五六
(ア) 生産の縮小	六五六
(イ) 製薬会社の生産集中	六六二
(ウ) 富山県売薬試験場の建設	六六七
二、販路拡大方策——宣伝及び展覧会	六七一

三、組織づくり……………六七七

(ア) 薬業同志会……………六七七

(イ) 県売薬行商最寄会連合会……………六七九

(ウ) 売薬原料購買利用組合……………六八七

四、不況打開の条件づくり……………六八八

(ア) 売薬荷物運賃の引下げの陳情……………六八八

(イ) 国民健康保険制の反対……………六九〇

(ウ) 売薬改良調査会……………六九七

(エ) 行商人必携手帳の厳守……………七〇五

第二節 海外売薬……………七一

一、海外売薬の振興……………七一

(ア) 丸師売薬株式会社……………七一一

(イ) メキシコ進出の国際製薬株式会社計画……………七一三

(ウ) 県下あげての国際製薬株式会社の設立……………七三〇

二、満州売薬の伸展……………七四〇

(ア) 満蒙輸出組合の設立計画……………七四〇

(イ) 満州に製薬会社創立……………七四二

第三節 薬業教育充実への動き……………七四四

一、富山薬学専門学校の大学昇格運動……………七四四

(ア) 明治・大正期の先覚者の提案……………七四四

(イ) 昭和初期の昇格運動……………七四六

二、小・中学校の薬業科設置運動	七四八
(ア) 富山市立富山薬業学校の設立	七四九
(イ) 東水橋実業学校に薬業部の設置	七四九
(ウ) 四方小学校に薬学科の設置運動	七五〇
第六章 戦時下の富山売薬業	七五一
第一節 満州事変の推移	七五二
一、満蒙への進出	七五二
(ア) 大陸の新情勢	七五二
(イ) 大陸売薬の推進者たち	七五五
二、日満産業博覧会の開催	七五九
(ア) 日満博の世論	七五九
(イ) 売薬振興館	七六〇
三、広貫堂等企业の大陸進出	七六一
第二節 全購連・健康保険の進出対策	七六七
一、全購連売薬対策	七六七
(ア) 全購連売薬	七六七
(イ) 官公営売薬・青年団売薬	七六九
(ウ) 損害対策	七六九
二、国民健康保険対策	七七四
(ア) 国民健康保険法	七七四
(イ) 国保反対運動	七七六

第三節	日中戦争と統制経済	七七九
一、	戦争の拡大と国家統制	七七九
二、	売薬業の経済統制	七八〇
(ア)	進物や金箔・木綿の制限	七八〇
(イ)	正価問題と九・一八ストップ令	七八六
(ウ)	売薬工業組合の設立	七八八
(エ)	売薬統制会社の設立	七九〇
三、	薬草栽培の奨励	七九三
第四節	太平洋戦争と売薬業の統合	七九五
一、	太平洋戦争と医薬制度の改革	七九五
(ア)	太平洋戦争の推移	七九五
(イ)	薬事法の制定	七九六
二、	東南アジアへの進出	七九九
三、	企業の統合	八〇二
(ア)	売薬諸会社の統合	八〇三
(イ)	配置ブロック制と一戸一袋制の実施	八〇四
(ウ)	徴兵と労働力不足	八〇八
四、	戦時下の薬業教育	八一〇
(ア)	実業補習学校と実業学校	八一〇
(イ)	小学校薬業科の新設	八一一
(ウ)	富山薬学専門学校	八一二

第七章 戦後の富山売薬業……………八二三

第一節 苦しい再出発……………八一四

一、敗戦の混乱と欠乏から新秩序へ……………八一四

(ア) 敗戦と薬の統制撤廃……………八一四

(イ) 薬業団体の衣替え……………八一七

(ウ) 新薬事法及び社会保険……………八二二

(エ) 薬事行政の取締り……………八二四

二、県勢総合計画における薬業計画……………八三〇

三、原料不足下の家庭薬製造とその展開……………八三四

(ア) 原料難と資金難……………八三四

(イ) サントニンの大量入荷……………八三六

(ウ) 製薬業の前進……………八三八

(エ) 貿易再開への努力……………八四六

四、自由配置と薬業経営……………八四九

(ア) 統制配置から自由配置へ……………八四九

(イ) インフレ下の売薬行商……………八五三

五、薬業団体の組織化……………八五九

(ア) 富山県家庭薬配置商業協同組合の設立……………八五九

(イ) 富山県薬業連合会の設立……………八六三

(ウ) 企業別協同組合の結成……………八六七

六、配置家庭薬に関する世論調査……………八七〇

七、富山平野の売薬業と地域社会——堀江の事例……………八七九

八、学制改革と薬業教育……………八八九

(ア) 富山大学薬学部設置……………八八九

(イ) 新制高校の薬業教育……………八九〇

(ウ) 新制中学の薬業教育……………八九一

第二節 経済の高度成長と富山県薬業……………八九三

一、経済の発展と薬事行政……………八九三

(ア) 薬業の振興策……………八九三

(イ) 農協家庭薬の進出と対策……………八九六

(ウ) 薬事法の改正と配置家庭薬業者……………九〇一

(エ) 各種災害に対する援護……………九〇五

二、新薬の登場……………九〇八

(ア) 家庭薬製造の動向……………九〇八

(イ) はり薬全盛からビタミンブームへ……………九一一

(ウ) 経営の体質改善……………九一三

(エ) 最低賃金制の導入……………九一五

(オ) 富山のくすりの宣伝……………九一七

(カ) 貿易の再開から発展へ……………九一九

三、高度成長下の売薬行商……………九二四

(ア) 配置行商人の全国及び県内の分布……………九二四

(イ) 出先県における配置家庭薬協議会の活動……………九二九

(ウ) 「農協家庭薬」の戦略と対策……………九三四

四、懸場帳の移動……………	九四〇
(ア) 懸場の放置と重置……………	九四〇
(イ) 懸場帳売買の地域性……………	九四一
五、富山県薬業の新動向……………	九四五
(ア) 製薬会社と帳主の規制関係……………	九四五
(イ) 薬業学校卒業者の他業種への流出……………	九四八
(ウ) 旅先移住への芽生え……………	九四九
(エ) 製薬会社の本社移転……………	九五一
六、薬業団体の動向……………	九五一
(ア) 全国配置家庭薬協議会の活動……………	九五一
(イ) 富山県内の商業組合の結成……………	九五三
(ウ) 協同組合の活動とその悩み……………	九五七
七、薬業教育……………	九五九
(ア) 配置員の指導から養成へ……………	九五九
(イ) 広貫堂薬学院の設置……………	九六一
(ウ) 県立薬業講習所の開設……………	九六九
(エ) 「七・二体制」と高校及び中学の薬業教育……………	九七二
(オ) 富山大学薬学部に大学院設置……………	九八六
第三節 富山県薬業の現況……………	九九二
一、製剤面の新局面……………	九九二
(ア) アンブル入りかぜ薬禍と行政……………	九九二
(イ) 薬業界の対応……………	九九九

	むすび	
一、	経営の継続性	〇六〇
	(ア) 消費者本位の販売戦略	〇六一
	(イ) 行商の対人信用	〇六二
	(ウ) 懸場帳の重要性	〇六四
二、	配置行商の変化	〇一九
	(ア) 旅先への転住	〇一九
	(イ) 従業者の老齡化	〇二三
	(ウ) 旅先分布の変動	〇二六
三、	産地診断と業務行政	〇三四
	(ア) 昭和四十六年の産地診断	〇四〇
	(イ) 昭和五十四年の産地診断	〇四四
	(ウ) 業務行政の指導	〇四八
四、	薬業団体と薬業教育	〇五一
	(ア) 薬業団体の現況	〇五五
	(イ) 富山医科薬科大学の創設	〇五五
	(ウ) GMPと県の指導	〇五九
	(エ) 石油ショック	〇六二
	(オ) 薬害の対策	〇六四
	(カ) GMP以後の薬業界の変動	〇六八

二、「完全な商人」としての富山売業商人	一〇六六
(ア) 信用・信頼性	一〇六八
(イ) よい商品	一〇六九
(ウ) 市場調査	一〇六九
(エ) 記帳と計理	一〇七〇
三、薬業史と現代の課題	一〇七一

編集を終えて	一〇七八
--------	------

あとがき	一〇八一
------	------